

八大学工学部長会議声明

2019年11月27日

1953年の「就職協定」、1997年の「倫理憲章」、2013年の「採用選考に関する指針」と続いた我が国の就職・採用活動の枠組みは、いま転換の機会を迎えています。ここに、高度工学系人材育成に大きな責任を担っている八大学工学系連合会は、就職・採用活動のあり方に対し、以下の様に考え、取り組んでまいります。

産業を支えイノベーションを牽引する高度工学系人材の育成において、我が国の研究と教育を一体化させた工学系大学院教育のシステムは、世界的に見ても高く評価されています。工学系大学院において学生は、研究者・技術者としての基本素養を固め、イノベーション力を涵養します。

就学期間中に就職活動を行う我が国独特の方式は、これまである面で有効に機能してきたと思います。しかしながら、年を追うごとに就職・採用活動が早期化・長期化し、その結果、この独特のシステムのために大学院生の成長の大事な時間が割かれる事態に陥り、我が国の高度工学系人材育成に深刻な影響を与えています。社会の急速な変化とグローバル化が進行する今日、将来を考える時間や余裕のないまま学生たちが就職活動に巻き込まれてしまい、成長の機会が失われているのです。さらに加えて、高度リーダー人材を目指す「博士課程への進学」、研究者・技術者としての幅を拓ける「海外留学」などへの挑戦意欲を阻む要因にもなっています。

この様な実態に鑑み、八大学工学系連合会を代表して八大学工学部長会議は、ここに、就職・採用活動問題の解決に向けて、以下を提言いたします。

1. 八大学工学系大学院は、高度工学教育プログラムの推進、修了要件の厳格化などにより、大学院教育の質保証の向上に引き続き取り組みます。
2. 工学系大学院学生の採用選考におかれましては、大学院における学修・研究の成果・実績を適正に評価するとともに、学生の主体的選択を尊重して頂くことを強く要望します。
3. また、採用側におかれましては、大学院生の就職活動において適切な時期の選択と活動期間の短縮に配慮されることを強く要望します。
4. 八大学工学系大学院は、高度工学系人材育成の国際的競争力の観点から、就職・採用活動がより国際化されていくことを期待します。
5. 八大学工学系大学院はインターンシップ実施機関と協力し、教育的意義を持つプログラムの開発・実施、グッドプラクティスの積み上げなどを通して人材育成に有効なインターンシップの確立・普及を進めます。

以上

<八大学工学部長会議構成員>

北海道大学大学院工学研究院長・工学部長	瀬戸口 剛
東北大学大学院工学研究科長・工学部長	長坂 徹也
東京大学大学院工学系研究科長・工学部長	大久保達也
東京工業大学工学院院长	岩附 信行
名古屋大学大学院工学研究科長・工学部長	水谷 法美
京都大学大学院工学研究科長・工学部長	大嶋 正裕
大阪大学大学院工学研究科長・工学部長	馬場口 登
大阪大学大学院基礎工学研究科長・基礎工学部長	狩野 裕
九州大学大学院工学研究院長・工学府長・工学部長	久枝 良雄